

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立唐津商業高等学校定時制
-----	-----------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 最終学年では各種検定目標取得率を達成できた。今後いっそうの学年を通した資格取得の奨励、基礎学力の定着に向けて、計画的な指導の必要性がある。 給食時間の変更等により、昨年度より喫食率は約2割増加し、一定の成果を上げることができた。さらに、望ましい生活習慣の形成、食の自己管理能力の育成に向けての取り組みに努めていきたい。 豊かな心を身に付ける教育並びにキャリア教育の充実をはかることで、勤労観、規範意識の育成につとめることができた。今後も、全職員の連携のもと、生徒の主体的な活動を取り入れ、学年を通じたキャリアパスポートの充実を力を入れていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	幅広い知識と教養を身に付け、自ら考え行動する資質を育み、ふるさと唐津や我が国の発展に貢献できる人材（人材）を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>①学力の向上 わかる授業、考える力（論理的思考力）を身に付け得る授業を実施し、生徒の学ぶ意欲を高め、適正な進路選択ができる学力の定着を図る。</p> <p>②商業教育の充実 「ホスピタリティマインド（気配りができる心の持ち方）」を会得するとともに商業生として差別化できるだけの専門的な知識とスキルを習得させる商業教育を実践する。</p> <p>③地域社会への貢献 常に社会貢献の視点を持ち、常に学校の情報を積極的に発信しながら、学校教育活動全般を通じて地域社会と共存する取組を実践する。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果			評価	意見や提言
				達成度 (評価)	実施結果				
●学力の向上	○基礎的な文字力・計算力の定着	○文字力テスト、計算力テストを年間各7回実施(前期4回、後期3回)	<ul style="list-style-type: none"> 文字力テストについては4級レベルを中心に漢字の意味を理解し、正しい漢字を書き、会話や文章の中で適切に使う能力を育成する。 計算力テストについては個別指導も含め、全学年、基礎的数学技能を身に付けられるように指導する。 今年度は4限目に実施時間を設定し、全学年が一つの教室に集合して受験する。また、事前学習や復習に取り組みさせることで、計画的な学習習慣の定着を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 文字力テスト、計算力テストとも当初の計画通り実施できた。 4限目にHRを設定したため、昨年度に比べ受験者が増加したが、後半では無断で早退する生徒もいた。来年度にむけて、実施時間の設定や実施方法を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みを継続し、学力向上に努めてほしい。 	教務主任 各教科主任 各担任	
	○資格取得の奨励と合格率の向上	○検定試験を積極的に受験するよう促し、卒業までに4つの検定試験で3級以上の取得率80%以上 ○各種検定を少なくとも1回は受験させる。	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得に対する意欲を喚起するために、個別指導を実施する。 検定受験までのロードマップ提示や明確な目標設定を行う。また、職員間の情報共有を徹底する。 個々の実力に応じた受験に対応するために、習熟度別の展開授業など指導体制を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別展開授業や個別指導の充実が成果にあらわれた。簿記上級取得に向けた2年次からの展開授業により、日商簿記3級や全商簿記1級取得への可能性が高まった。 検定受験までのロードマップ提示や明確な目標設定を行う。また、職員間の情報共有を徹底する。 【令和5年度 取得状況(一部)】 全商簿記3級 9名合格 全商簿記2級 5名合格 全商情報2級(ビジネス情報) 1名合格 全商ビジネス文書1級 1名合格 	A	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みを継続し、さらに向上することを期待している。 	教務主任 各教科主任 各担任	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自然と挨拶を交わらせる生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 登校時や学校生活の中で、教員側から挨拶や声かけを積極的に行うことで、人とのふれあいの楽しさを伝え、生徒間に浸透させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶については80%以上の生徒ができるようになった。できれば自発的に挨拶ができるようになってほしいが、これからも教員側から生徒一人一人に積極的な声掛けを行いコミュニケーションをとっていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> さらに積極的な取り組みを進めてほしい。 	生徒指導主事 各担任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止への取組について組織的に対応できていると回答する職員90%以上	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針を見直し、保護者へ周知をする。 いじめ対応に関する研修・会議を年間2回以上行う。 生徒情報交換会を月に1回以上実施し、職員間で情報共有をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全職員により、生徒の学校生活の様子を観察しながら、生徒個々の体調や校内における人間関係などに注視することで、円滑な学校生活の保全に努めることができた。アンケートでも対応を必要とする事案はなかった。 生徒情報交換会が実施され、貴重な情報が、全職員に共有され見守り、支援体制が整った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を密にし、丁寧な見守りを継続してほしい。 	保健主事 教育相談係 各担任	
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎年度末のアンケートで、「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかというを感じる」生徒100%(令和4年度達成。今年度も継続) ★郷土の人材を活用した講演会等、各学年年間3時間以上	<ul style="list-style-type: none"> 郷土学習資料『佐賀語り』の内容に対して、一問一答形式の自作プリントを用い、佐賀や唐津の事に興味を持つ契機となるように指導する。 郷土について学ぶ時間を前期2時間、後期1時間(講演会、講演会に準ずる映像など)実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 『佐賀語り』を活用した自主教材を作成し、1年生では『佐賀語り』を用いた学習を3時間行うことができた。 今年度は、唐津人形浄瑠璃保存会による講演を実施した。浄瑠璃の上演だけでなく、民謡や踊りなど、生徒が興味を持つような内容で、生徒たちは非常に楽しんでいった。アンケートでは、「講演の内容」、「郷土の価値の再認識」の質問項目において、すべての生徒が肯定的な回答だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味、関心を高める実践を推進してほしい。 	佐賀を誇りに思う教育推進 事業係	
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	○十分な睡眠がとれている生徒50%以上 ○自身の健康保持のために、食事と運動と休養のバランスが大切であることを認識している生徒70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣状況アンケートを実施し、生徒の認識状況を把握する。 保健だよりや掲示物で啓発する。 保健指導を実施する。 講演会等により啓発する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の見直しについて、口頭での指導や保健だよりでの啓発を行った。食の指導では、外部講師を招聘し、生活習慣と食の両面から指導を行った。 アンケートにおいて、十分な睡眠をとれていると回答した生徒の割合は、7月の結果と比較してほとんど変化はなかった。健康保持のために食事・運動・休養のバランスが大切であることについて、認識している生徒はほぼ100%であったが、行動できている生徒は少なかった。今後は、行動実習までつなげられるよう、さらなる指導の工夫が必要と感じた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> すぐに大きな変化は難しいだろうが、指導を継続し、生活習慣改善に取り組んでほしい。 	保健主事 養護教諭	
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える生徒75%以上	<ul style="list-style-type: none"> 給食だよりを発行し、食習慣の大切さについて積極的に情報を提供する。 教科担当者と連携して、食と健康に関する内容を取り扱い、指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して「給食だより」を発行し、情報提供に努めた。HR活動では、外部講師による食の指導を行い、生徒たちは興味深々聞いていた。 アンケートにおいて、健康に食事は大切であると回答した生徒の割合は99.2%で、目標を大きく上回った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 健康面から食の大切さを伝えとともに、職の楽しさや食文化を学ぶ活動を期待している。 	学校栄養職員 保健主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(1ヶ月80時間以下)の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 学校閉庁日を設定する。 出退勤管理システムを定期的に点検し、定時出退勤を呼びかける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々の定時退勤を呼び掛け、退勤しやすい職場環境づくりに努めた。時間外在校等時間は月平均5時間52分(昨年同時期比31分短縮)で、教育委員会が掲げる目標時間を十分に下回っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みを継続し、さらなる改善を期待する。 	管理職	
	○職員会議の効率化	○会議の効率化による職員会議の回数(月1回)維持及び各回の時間短縮	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画による回数の設定、資料の事前配付、及び担当者間での事前調整をすることで、会議の効率化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 昼食時間の活用や日常での情報共有により、会議の効率化を図った。職員会議の平均時間は約39分だった。昨年度の平均時間より約4分長かったが、目標をおおむね達成できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みを継続し、さらなる改善を期待する。 	管理職	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果			
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合100%以上	<ul style="list-style-type: none"> 地域・企業等と連携した学校運営を行う。 学校ホームページ等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。 受検生向け説明会において広報活動に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページで学校生活の様子を発信した。始業式や開講式などの記事に2学期制の説明を掲載したり、中学生の興味を引くような体験的活動の記事を掲載したりした。 11月と12月に開催された進学説明会に参加し、広報活動に努めた。 自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合は81.8%、職員の割合は72.7%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定時制の活動について、周知する取り組みを推進してほしい。 	管理職
○進路指導の充実	○職業観・勤労観の育成 ○キャリア教育の充実と希望進路の実現	○アルバイトの就労率70%以上 ○アルバイト先の訪問を実施し、責任者との情報交換を行う。また、生徒の働いている状況等について観察する。 ○卒業予定者の希望進路決定率100%	<ul style="list-style-type: none"> アルバイトを奨励するが、あくまでも学業を優先した指導を行う。 担任との情報共有を頻繁に行い、生徒の指導に生かす。 1～3年生についてはキャリア・パスポート活用の充実を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初より、卒業年次生については、キャリア教育の充実を図ってきた。就職希望者2名とも就職が内定し、4月入社に向けて必要な書類等の提出も順調に行われている。 夏季休業中、雇用主との連携を図るために、担任を中心に就労先訪問を実施した。職業観・勤労観の育成の醸成を図ることができた。就労率は60%となっている。 キャリア・パスポートは計画通り進めることができています。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、生徒の志望に応じて、丁寧な指導を継続してほしい。 	進路指導主事

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 全教科において学習指導を見直し、生徒が理解しやすい授業の実践に努めた。今後も実践を継続し、生徒にとって進路選択の幅を広げることができる学習環境を整えていきたい。 商業教育の充実については、商業科において展開授業や個別指導等のきめ細かな指導を実施することができ、検定合格状況も良好であった。引き続き、生徒の実態に即した指導に取り組んでいきたい。 学校行事において、生徒が自己有用感を感じることができる活動を取り入れることで、自己理解・自己管理能力の育成に努めた。キャリア教育の充実については、おおむね目標を達成できた。地域と連携した活動については課題があるので、今後も検討を継続する。
----------------	---